

埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

—平成 28 年度—

2017

千葉市教育委員会

例　言

1. 本書は平成 28 年度埋蔵文化財調査（市内遺跡）の報告書である。
2. 本調査は、千葉市が市域の開発事業等に対し、埋蔵文化財の取り扱いについての適切な措置を講じ、その保護を図るために国庫の補助を受けて実施した。調査組織は次のとおりである

事業主体者及びその組織

千葉市（主管）千葉市教育委員会生涯学習部文化財課

教育委員会事務局

教　育　長	志村　修
教　育　次　長	森　雅彦
生涯学習部	
部　長	大崎　賢一
文化財課	
課　長	志保澤　剛
特別史跡推進担当課長	飛田　正美 ※加曾利貝塚博物館館長兼務
課長補佐	芦田　伸一
文化財保護班	
主　查	松崎　直也
主任主事	長南　基
主任主事(配属)	倉田　義広
主　事	八木澤　美有
特別史跡推進班	
主　查	森本　剛
主任主事	木口　裕史
主任主事	須賀　真弓
主任主事	大内　祐也 ※9月1日昇格
埋蔵文化財調査センター	
所　長	寺崎　幸雄
主　查	石橋　一恵
主任主事	長原　亘
主任主事	米倉　貴之
嘱　託　員	難波　美由紀
嘱　託　員	菅谷　通保
嘱　託　員	西野　雅人
嘱　託　員	手嶋　秀吾 ※5月1日着任

3. 市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物包含層・貝塚・集落跡・古墳・塚・野馬土手・城館跡等の遺跡を包括したものである。
4. 本書の執筆・編集は、長原　亘が行った。
5. 各遺跡の調査により出土した遺物及び作成した図版・写真是、千葉市埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

例 言

目 次

はじめに	1
1 田向遺跡	4
2 十五里遺跡	5
3 台さら坊遺跡	6
4 西花遺跡	8
5 一本松遺跡	9
6 上ノ山遺跡	10

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 発掘調査遺跡位置図	3	第10図 一本松遺跡地形図	9
第2図 田向遺跡地形図	4	第11図 一本松遺跡遺構配置図	9
第3図 田向遺跡遺構配置図	4	第12図 上ノ山遺跡地形図	10
第4図 十五里遺跡地形図	5	第13図 上ノ山遺跡遺構配置図	11
第5図 十五里遺跡遺構配置図	5	第14図 上ノ山遺跡土器埋納 Pit	12
第6図 台さら坊遺跡地形図	6	第15図 上ノ山遺跡埋設土器	12
第7図 台さら坊遺跡遺構配置図	7	第16図 十五里遺跡出土遺物	13
第8図 西花遺跡地形図	8	第17図 台さら坊遺跡出土遺物	13
第9図 西花遺跡遺構配置図	8	第18図 上ノ山遺跡出土遺物	14

写真図版目次

写真図版 1

- 1 田向遺跡 調査前状況
- 2 田向遺跡 2トレンチ遺構検出状況
- 3 田向遺跡 8トレンチ遺構検出状況
- 4 田向遺跡 調査終了状況
- 5 十五里遺跡 調査開始直後状況
- 6 十五里遺跡 2トレンチ調査風景・遺構検出状況
- 7 十五里遺跡 1トレンチ遺構検出状況
- 8 十五里遺跡 調査終了状況

写真図版 2

- 1 台さら坊遺跡 調査前状況
- 2 台さら坊遺跡 4.9トレンチ遺構検出状況
- 3 台さら坊遺跡 3.9トレンチ遺構検出状況
- 4 台さら坊遺跡 調査終了状況
- 5 西花遺跡 調査開始直前状況
- 6 西花遺跡 8トレンチ精査後状況
- 7 西花遺跡 7トレンチ精査後状況
- 8 西花遺跡 調査終了状況

写真図版 3

- 1 一本松遺跡 調査前状況
- 2 一本松遺跡 2トレンチ精査後状況
- 3 一本松遺跡 7トレンチ精査後状況
- 4 一本松遺跡 調査終了状況
- 5 上ノ山遺跡 調査前状況（西半分）
- 6 上ノ山遺跡 調査前状況（東半分）
- 7 上ノ山遺跡 7C-dトレンチ遺物出土状況
- 8 上ノ山遺跡 7C-dトレンチ遺物出土状況（近景）

写真図版 4

- 1 上ノ山遺跡 7C-dトレンチ埋設土器出土状況（近景）
- 2 上ノ山遺跡 7C-dトレンチ埋設土器出土状況
- 3 上ノ山遺跡 7C-dトレンチ遺物出土 Pit 完掘状況
- 4 上ノ山遺跡 4D-dトレンチ土坑検出状況
- 5 上ノ山遺跡 調査終了状況（西半分）
- 6 上ノ山遺跡 調査終了状況（東半分）
- 7 上ノ山遺跡 埋設土器および部分拡大

はじめに

千葉市では、市域の開発事業に対して、埋蔵文化財の取扱いについて適切な措置を講じるため、昭和63年度から国庫の補助を受け、民間の開発事業に先立ち、市内に所在する遺跡の規模や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施している。

本書は、その発掘調査の成果をまとめたものであり、今回は平成28年度に実施した6遺跡の発掘調査の成果について報告する。

調査対象遺跡の概要は、下記の通りである。

1. 田向遺跡

1. 調査の種類 確認調査
2. 調査地 千葉市若葉区加曾利町760-1
3. 調査の原因 宅地造成
4. 原因者 株式会社不動産市場
5. 調査担当者 長原 亘
6. 調査期間 平成28年6月6日～6月9日
7. 調査面積 613 m²のうち50 m²

2. 廿五里遺跡

1. 調査の種類 確認調査
2. 調査地 千葉市若葉区東寺山町2番5
3. 調査の原因 宅地造成
4. 原因者 個人
5. 調査担当者 長原 亘
6. 調査期間 平成28年6月10日～6月17日
7. 調査面積 634.68 m²のうち48 m²

3. 台さら坊遺跡

1. 調査の種類 確認調査
2. 調査地 千葉市若葉区坂月町323番4
3. 調査の原因 大型車両用駐車場造成
4. 原因者 有限会社武井観光
5. 調査担当者 長原 亘
6. 調査期間 平成28年6月20日～7月8日
7. 調査面積 5,059 m²のうち366 m²

4. 西花遺跡

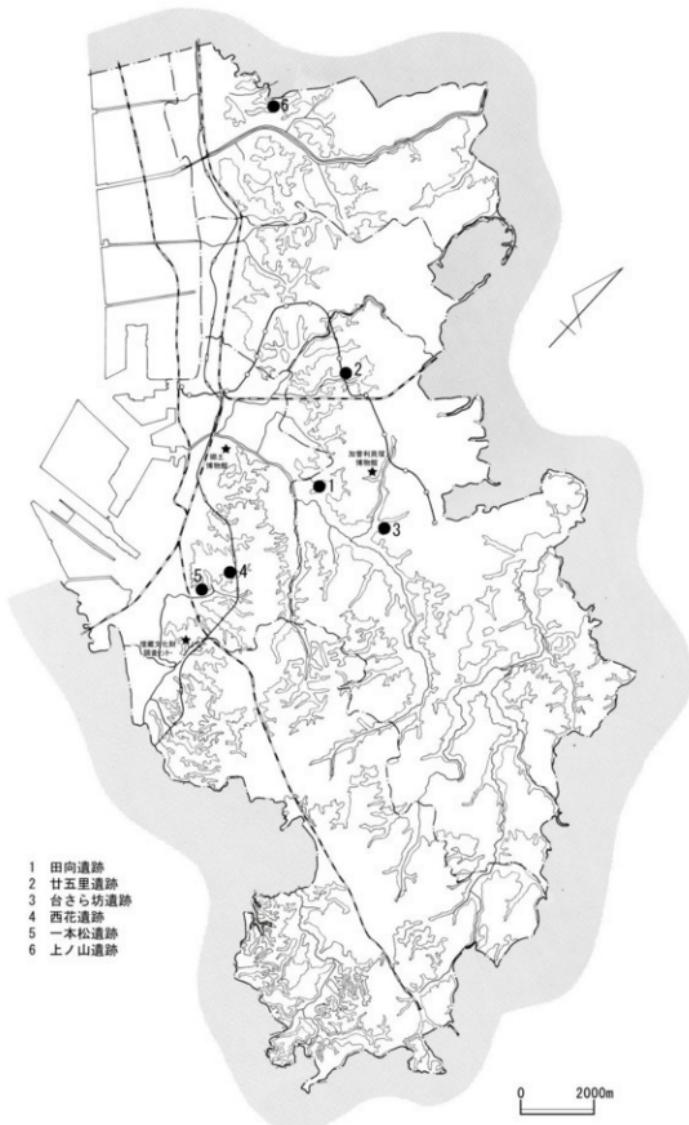
1. 調査の種類 確認調査
2. 調査地 千葉市中央区大森町 66 番 1
3. 調査の原因 個人住宅
4. 原因者 個人
5. 調査担当者 長原 亘
6. 調査期間 平成 28 年 7 月 19 日～7 月 22 日
7. 調査面積 379 m² のうち 45.25 m²

5. 一本松遺跡

1. 調査の種類 確認調査
2. 調査地 千葉市中央区大巣寺町 256-1, 2
3. 調査の原因 個人住宅
4. 原因者 個人
5. 調査担当者 長原 亘
6. 調査期間 平成 28 年 8 月 30 日～9 月 5 日
7. 調査面積 342.07 m² のうち 35 m²

6. 上ノ山遺跡

1. 調査の種類 確認調査
2. 調査地 千葉市花見川区長作町 833, 834-5, 834-1 の一部
3. 調査の原因 宅地造成
4. 原因者 株式会社ハウスクリエイト
5. 調査担当者 倉田義広、長原 亘
6. 調査期間 平成 28 年 10 月 24 日～11 月 4 日
7. 調査面積 3,077.57 m² のうち 240 m²



第1図 発掘調査遺跡位置図

1 田向遺跡（第2～3図 写真図版1-1～4）

遺跡の位置と環境 遺跡は、市の中心市街地を貫流して東京湾へと注ぐ都川下流域右岸の標高26mを測る台地上に立地する。遺跡の西側約300mに京葉道路、同一台地の南端部裾下に国道126号線(東金街道)がある。現状は、前年度から始めた宅地造成地などになっている。平成27年度には、確認調査後に住居跡が確認された部分の本調査を実施し、1軒の奈良時代の住居跡を調査した。

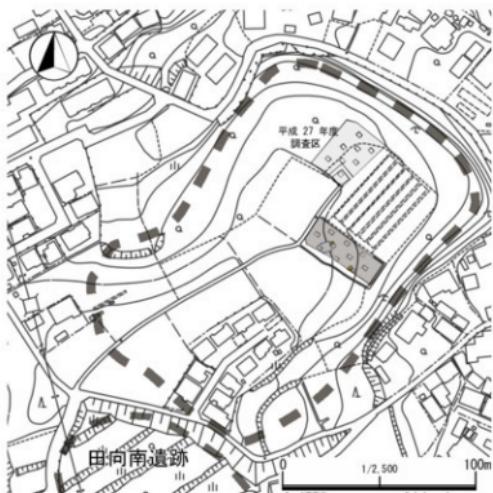
周辺の遺跡 同一台地の都川を見おろす南端部へむけて、田向南遺跡がある。昭和54年に土砂採取に先立つ事前調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代にかけての堅穴住居跡31軒などが見つかっている。谷津を挟んだ北側の台地上には、旧石器時代から平安時代におよぶ集落跡が見つかっている立木南遺跡(現加曾利中学校内)があり、立木南遺跡から谷向かいの東側台地上に縄文時代後期の環状貝塚である国指定史跡の花輪貝塚もある。

調査の結果 地表から確認面(ローム層上面)までの土層厚は20～50cmと薄く、畑作による深耕がローム層にまでおよぶ。

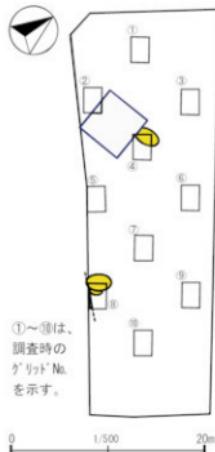
遺物は、縄文時代中期の土器片、古代の土師器の細片などが散見できた。

遺構は、奈良・平安時代の住居跡1軒と土坑3基、溝状遺構1条が検出された。

なお、今回検出した住居跡1軒の本調査および報告書刊行が年度内に予定されている。



第2図 田向遺跡 地形図



第3図 田向遺跡 遺構配置図

2 廿五里遺跡（第4～5図、第16図 写真図版1-5～8）

遺跡の位置と環境 遺跡は、都川の支流にあたる葭川流域の廿五里支谷奥部、標高約27mを測る台地上に立地する。モノレールのみつわ台駅から都賀方向に約300mの場所に位置する。この遺跡は、昭和46年の市立千葉高校の学術調査に始まり、昭和55・56年の千葉市による確認調査、千葉県によるモノレール建設に伴う昭和58年の本調査、老人ホーム建設に伴う平成9年の本調査（今回調査地の西隣）などの発掘歴がある。かつては、廿五里貝塚、廿五里南貝塚、廿五里城跡などの呼称もあったが、現在はそれら全てを包括して廿五里遺跡としている。

周辺の遺跡 この遺跡周辺には多くの遺跡がある。北側地続きに隣接する廿五里北貝塚や南東約600mに県指定史跡の東寺山貝塚などの貝塚が集まり、遺跡の南東部約600m、谷向かゝる台地上に奈良時代の地域拠点と目される原町遺跡群（根崎遺跡や台畠遺跡など）がある。

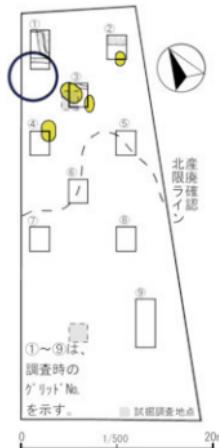
調査の結果 砂利の表層下には旧表土がほぼ残存せず、暗褐色土の遺物包含層が20～30cm程堆積し、ソフトローム上面に達する。対象地の南2/3がすでに大幅に削平され、大量の産業廃棄物が見つかっている。その影響を受けていない1～4トレンチからは、遺構・遺物が少なからず見つかっている。

1トレンチから縄文時代中期前葉の土器（第16図-1・2）を伴う住居跡が1軒見つかっている。その遺構を擴すように推定中世の溝5条や土坑4基が2～4トレンチなどでも確認されている。なお、1トレンチの溝状遺構から中世常滑焼の底部片（第16図-4）が出土した。

昭和46年の市立千葉高校の調査や平成9年の隣接地の調査で縄文時代中期前葉（阿玉台～加曾利E1式期）の遺構・遺物が確認されたことや、昭和58年のモノレール建設時の調査で中世城館の遺構・遺物が見つかっていることなどを追認する成果が今回の調査で得られたといえる。



第4図 廿五里遺跡 地形図



第5図 廿五里遺跡 遺構配置図

3 台さら坊遺跡（第6～7図、第17図 写真図版2-1～4）

遺跡の位置と環境 遺跡は都川の支流、坂月川の下流域左岸の標高約33mの台地平坦部に立地する。南南西約350mに市立坂月小学校、北東隣が坂月市民の森の位置にあたる。平成26年度に今回の対象地の東に接する地点で確認調査を実施している。

周辺の遺跡 東隣する市道建設時などに調査した味噌草野遺跡からは、奈良時代から平安時代初頭にかけての住居跡の他、複数の掘立柱建物跡が検出され、灰釉陶器などの遺物が出土している。台さら坊遺跡は、この味噌草野遺跡とよく似た構成要素が確認できた遺跡である。

調査の結果 基本層序は、表土層10cm前後、暗褐色土層10cm前後、10～20cm前後の黒褐色土層、その下にソフトローム層となるが、黒褐色土層が確認できないトレンチもあった。遺構は、黒褐色土層上面、もしくは暗褐色下面から掘削される。山林での確認調査だったので、トレンチの設定ができなかつた未調査域があるが、住居跡17軒、掘立柱建物跡4棟、溝状遺構2条、Pit 6基が広く展開していた。遺物は、奈良時代後半から平安時代初頭の須恵器や土師器が出土した。中には灰釉陶器（第17図-20）も含まれ、隣接する味噌草野遺跡と時期も遺構・遺物の構成内容も類似点が少なくない。

平成26年度の確認調査では、縄文時代後期と推定される住居跡も見つかっており、第17図-7～9のような縄文時代後期の住居跡がまだ存在する可能性もある。

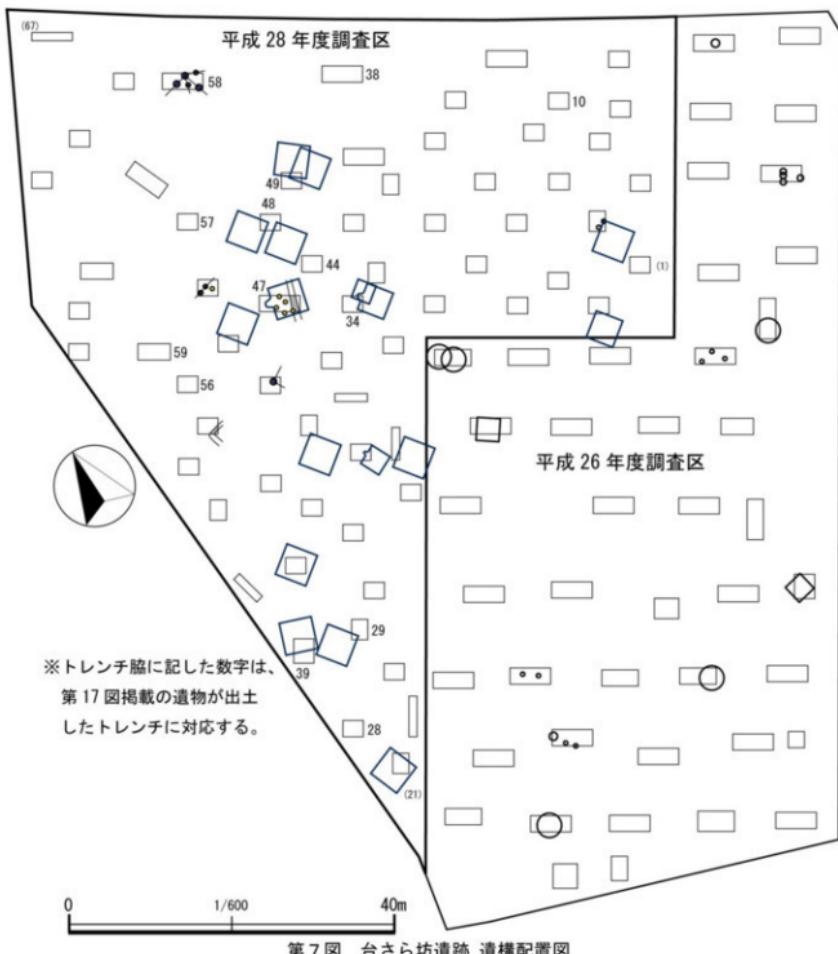
出土遺物の内、最も多いのは通称千葉産の須恵器で、大形の広口壺（第17図-15）や口径と胴部最大径が近似する甕（第17図-11～13）などは赤みを帯びた須恵器が少なくない。中には、表面が青灰色に近く、横に平行するタタキの甕（第17図-16）や、外側が青みを帯びた黒色化、断面や内面が灰白色で



第6図 台さら坊遺跡 地形図

やや軟質の大型甕片(第17図-22)などの他地域からの搬入品も少なくない。

味噌草野遺跡とは、位置的にも出土品の内容などの共通点が少なくなく、同一の性格を有するムラとして今後は把握すべきであろう。



第7図 台さら坊遺跡 遺構配置図

4 西花遺跡（第8～9図 写真図版2-5～8）

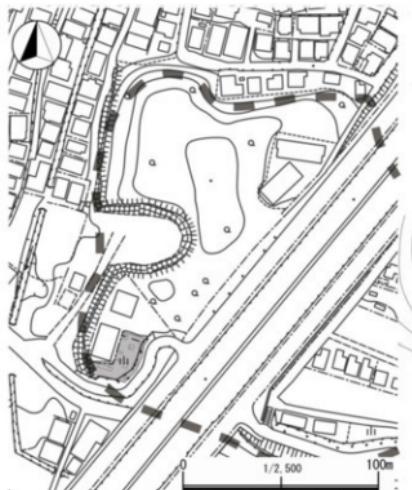
遺跡の位置と環境 遺跡は、生実池に集水される小支谷の一つで、現在の市立大森小学校付近を水源とする通称大巣寺支谷を南に臨む標高約20mの舌状台地上の平坦部に主に立地する。北に約250mで市立大森小学校、ほぼ真南に約350mで大巣寺と淑徳大学、東隣は京葉道路がある。昭和46年に京葉道路建設に伴い大森第2遺跡として本調査が行われている。平成に入り小規模な確認調査を数回行っているが、遺跡範囲の大部分が未調査のまま宅地化されてきた。本調査では、弥生時代と古墳時代中期の遺構・遺物がみつかり、中でも韓式系の軟質土器は全国的にも希少な出土例として知られている。

周辺の遺跡 京葉道路と千葉急行線（現京成千原線）などに伴う調査成果が周辺には少なくない。遺跡の東側に臨む大森支谷を挟んだ台地上には、古墳から平安時代にかけての集落である谷津遺跡があり、律令期の銅印の鋳造施設を含む地域の生産工房群が見つかった。大森第1遺跡は、古墳時代前期の集落、染谷津遺跡では平安時代の貝塚などが見つかっている。しかし、西花遺跡のように弥生時代の集落はなく、大森町周辺域の弥生時代を代表する遺跡と考えてよい。

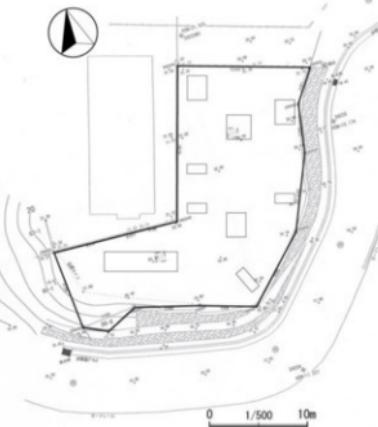
調査の結果 今回の対象地は、遺跡範囲の最西端傾斜地にあたり、遺跡の中心域から外れている可能性が考えられた。現地確認時には、古墳時代前期から中期の遺物が少なからず表採でき、中には縄文時代前期の土器片も含まれていた。

9トレンチ以外では、表土層直下でハードロームが検出された。9トレンチは、15cm前後の表土層下に暗褐色土層、その直下から遺構らしき凹みを確認したが、近現代のものであることが分かった。他のトレンチからは、何も検出されなかった。

遺物の多くが表採で、縄文時代前期、古墳時代前期と中期の土師器、古墳時代後期の須恵器が微量含まれていた。対象地の南縁を擁壁工事した際に遺構は削平されたと推定される。



第8図 西花遺跡 地形図



第9図 西花遺跡 遺構配置図

5 一本松遺跡（第10～11図 写真図版3-1～4）

遺跡の位置と環境 遺跡は、大巣寺が所在する小支谷を東に臨む小台地上の頂部にある。北北東約250mに漱徳大学、西約200mに京葉道路がある。また、南西約50mの同一台地上に“斥候ノ松跡”（ものみのまつあと）がある。これは、戦国時代の戦の折、物見が登って敵を探ったという伝承がある松が昭和55年まであった場所である。現在は、方形の塚の上や周辺に馬頭観音碑や供養塔などが敷地内に立っている。

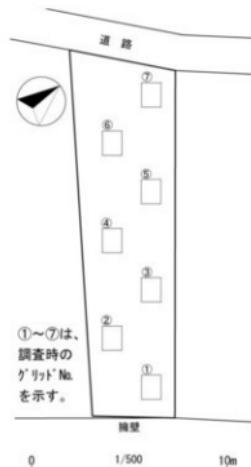
周辺の遺跡 同一台地上などの近隣での調査例はない。生実池に注ぐ流路が集まる花輪支谷を挟んだ東側の台地上に奈良時代前半の集落が見つかった後谷遺跡がある。

調査の結果 試掘時に小規模な土坑を検出したが、確認調査の結果、近世以降に掘られた方形の凹みであることがわかった。遺構と認識できるものは見つかなかった。また、遺物も表探で古代の土師器片を得たが、掘削時には全く出土しなかった。

斥候ノ松の存在や、大巣寺が近いことなどから中世の施設があったと推定されることが少なくない場所だが、現地形を見る限り、城郭や館跡などの痕跡は確認できない。



第10図 一本松遺跡 地形図



第11図 一本松遺跡 遺構配置図

6 上ノ山遺跡(第12~15図、第18図 写真図版3-5~8、写真図版4-1~7)

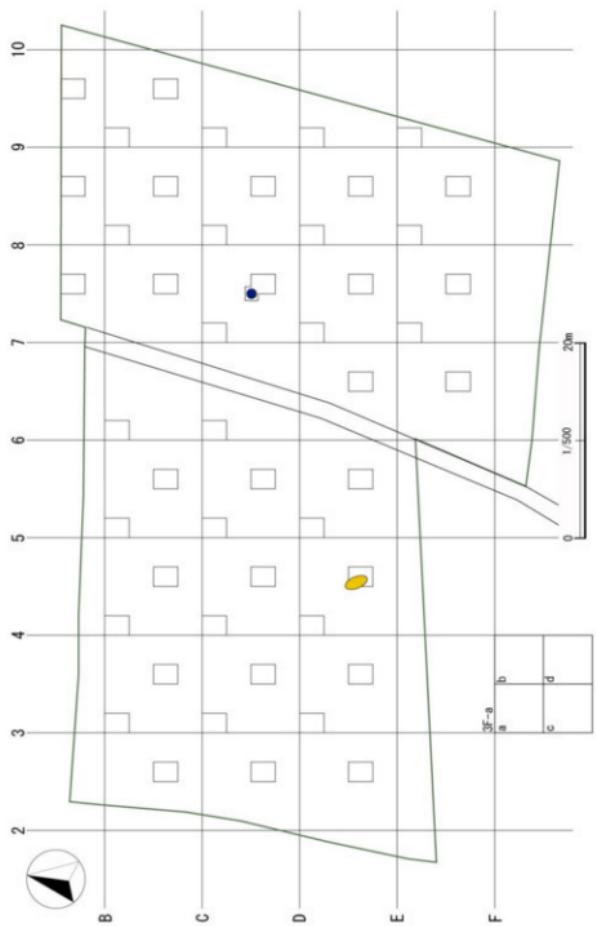
遺跡の位置と環境 花見川は、河口から約5km上流で流れを東へ変える。その場所から北へ伸びる谷の通称が長作支谷である。遺跡は、その長作支谷を東に臨む標高約24mの台地上に立地する。遺跡の北約400mには御成街道、北東に長作公民館、南西約700mに長瓶寺、南約700mに花見川本流がある。

周辺の遺跡 長作公民館西側の台地上には、平成16年の調査で縄文時代早期の貝塚、炉穴群と中世城郭の一部が見つかった長作城山遺跡がある。また、遺跡の北約400mの位置にある市立長作小学校の道路向かいには、縄文時代中期中頃の集落が見つかった地蔵作遺跡、真西約400mには、昭和35年に早稲田大学が調査した縄文時代後期の長作築貝塚がある。

調査の結果 基本土層は、10cm前後の表土層、15~25cmの暗褐色土層、5~20cmの黒褐色土層となり、遺構は暗褐色土層下か黒褐色土層内から掘り込まれる。暗褐色土層は一見すると単一層に見えるが、一部のトレンチで遺物を包含することがあり、細分が可能かもしれない。今後に同地域で調査を実施する場合、注意を要する。遺構は、縄文時代の土坑1基と土器埋納Pit1基が見つかった。Pit内に埋設された土器は、縄文時代後期の壺形土器で、土器が丁度収まるほどの小型の穴に横向きに据え置かれた状態で単独で見つかった(第14図)。出土直後は、ナデ調整主体の底部のみが露出したため、形状が倒卵形などが特徴である古墳時代後期の壺形の土器と考えていた。完形で出土する場合、住居跡か再葬墓と想定する場合が多い。しかし、住居跡と認識できる特徴が周囲ではなく、再葬墓としても横になる例は珍しい。調査区を一部拡張して全体像を確認したところ、貼付の隆帯が特徴的な土器が姿を現した。横向きに埋置するという市内で見かけない出土の仕方をした縄文土器といえる。



第12図 上ノ山遺跡 地形図

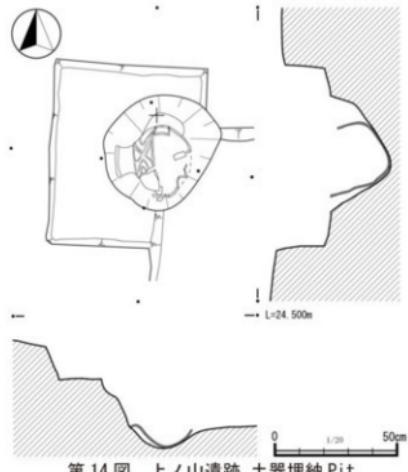


市内の縄文時代後期の遺跡から壺形の土器が見つかった例は少なく、史跡加曾利貝塚(若葉区)、台門貝塚(若葉区)、矢作貝塚(中央区)、六通貝塚(緑区)などの例がある。これらの土器は、上下に分かれるように作られるのが特徴の「切断壺形土器」で、東北発祥の土器と考えられている。しかし、上ノ山例は、東北の切断壺形土器の影響を強く受けた土器だが、胎土の質や口縁部の造りなど細かい点が地元で製作されたことを示し、モノの移動ではなく、情報がもたらされた結果、製作された土器と考えられる。

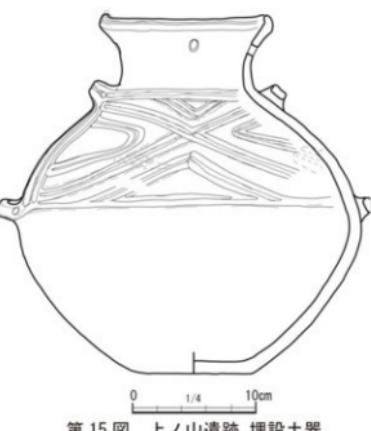
「切断壺形土器」は、土器を作る際、成形や文様の施設段階の直後、焼き上げる前に胴部を上下に分割するのが最大の特徴である。小型で赤彩される例も少なくない。東北地方北部(青森県や秋田県)に類例が多く、主な時期は、縄文時代中期後半(最花式)から後期(十腰内I式)である。堅穴住居跡、土壙、単独での埋設などからの出土例が多い。人骨片が入る場合があり、単独の場合や、破片がまとまって出土する場合もあることから、ムラ内でも特殊な用い方をしたとの見解もある。切断することは、壺本来の用途とは全く異なることや、人骨などを伴う場合があることなど普段使いの道具ではない特殊な目的のために意図的に作られた土器と考えられている。

上ノ山例は、器形、複線文様、口頸部の穿孔、上下二つの把手などの点で、切断壺形土器の特徴と一致するが、切断していない点が最大の相違点である。細部をみると、上下2個の輪状把手を左右1対に持ち、上下2個の把手を軸に左右に弧を描く手法、口縁部に段を有する特徴などは堀之内I式期の土器に見受けられるものである。堀之内式が流行る中、切断壺形土器の部分的な情報が取り入れられた土器といえよう。

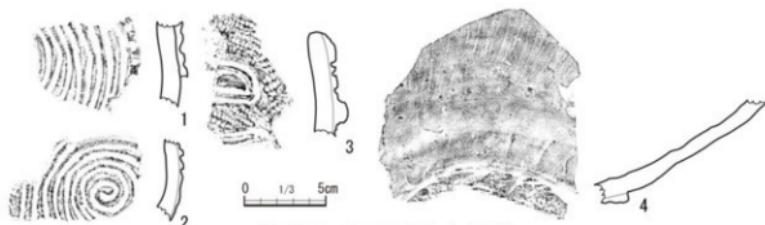
東北部での本来的な使用目的・製作方法などの情報の中で、“切断する”という行為自体の意味を理解していない、切断する必要がない使用目的のために製作したなど、いくつもの可能性が想定できる。取捨選択された情報にどのような意味があるのか考察するのは今後の課題である。



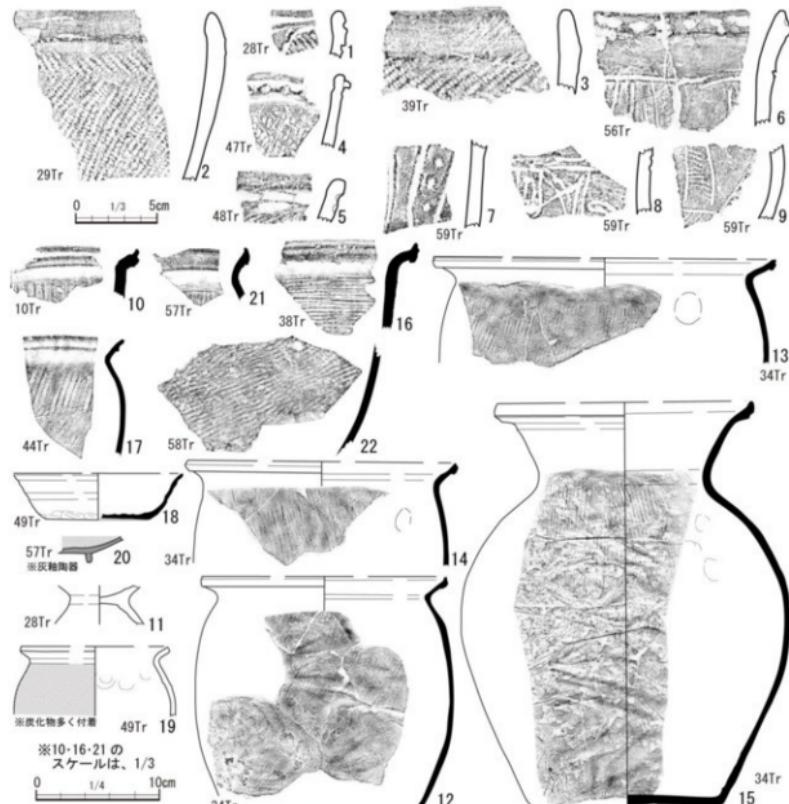
第14図 上ノ山遺跡 土器埋納Pit



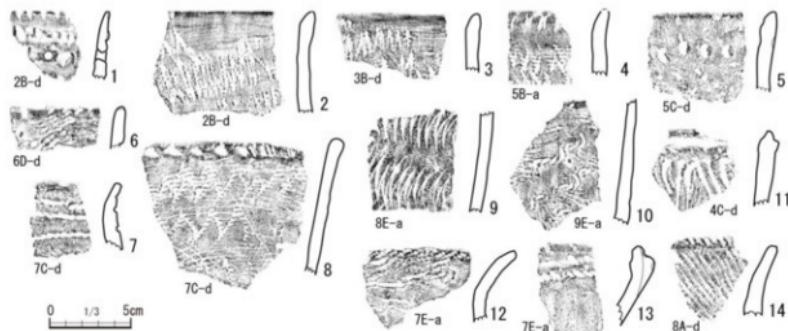
第15図 上ノ山遺跡 埋設土器



第16図 廿五里遺跡 出土遺物



第17図 台さら坊遺跡 出土遺物



第18図 上ノ山遺跡 出土遺物

上ノ山遺跡出土の遺物の多くは、遺構に伴わない縄文時代の土器片がばかりである。調査域全体から広く見つかったのは、縄文時代前期前半の浮島式や諸磯式のものが多い。2B-d トレンチからは、前期の土器が比較的集中して出土したが、遺構には伴っていない。なお、第18図-11~14のように後期壠之内式期のものが土器埋納 Pit 周辺に分布する傾向がうかがえる。



1 田向遺跡 調査前状況



2 田向遺跡 2トレンチ 遺構検出状況



3 田向遺跡 8トレンチ 遺構検出状況



4 田向遺跡 調査終了状況



5 叡五里遺跡 調査開始直後状況



6 叡五里遺跡 2トレンチ 調査風景・遺構検出状況



7 叡五里遺跡 1トレンチ 遺構検出状況

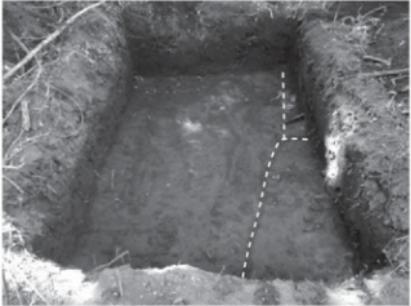


8 叡五里遺跡 調査終了状況

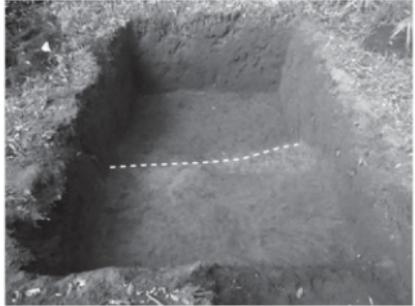
写真図版 2



1 台さら坊遺跡 調査前状況



2 台さら坊遺跡 49トレンチ 遺構検出状況



3 台さら坊遺跡 39トレンチ 遺構検出状況



4 台さら坊遺跡 調査終了状況



5 西花遺跡 調査開始直前状況



6 西花遺跡 8トレンチ 精査後状況



7 西花遺跡 7トレンチ 精査後状況



8 西花遺跡 調査終了状況



1 一本松遺跡 調査前状況



2 一本松遺跡 2トレンチ 精査後状況



3 一本松遺跡 7トレンチ 精査後状況



4 一本松遺跡 調査終了状況



5 上ノ山遺跡 調査前状況(西半分)



6 上ノ山遺跡 調査前状況(東半分)



7 上ノ山遺跡 70-dトレンチ 遺物出土状況



8 上ノ山遺跡 70-dトレンチ 遺物出土状況(近景)

写真図版 4



1 上ノ山遺跡 7C-dトレンチ 埋設土器出土状況(近景)



2 上ノ山遺跡 7C-dトレンチ 埋設土器出土状況



3 上ノ山遺跡 7C-dトレンチ 遺物出土Pit完掘状況



4 上ノ山遺跡 4D-dトレンチ 土坑検出状況



5 上ノ山遺跡 調査終了状況(西半分)



6 上ノ山遺跡 調査終了状況(東半分)



7 上ノ山遺跡 埋設土器および部分拡大

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかぎいちょうさ（しないいせき）ほうこくしょ							
書名	埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書							
副書名	一平成28年度—							
巻次								
シリーズ名	市内遺跡報告書							
シリーズ番号	第29冊目							
編著者名	長原 真							
編集機関	千葉市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL 043-266-5433							
発行年月日	西暦2017年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード	経緯度	調査期間	調査面積	調査原因		
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				北緯	東經
田向遺跡	若葉区加曾利町 760-1	12104	若葉区	35° -128	140° 36' 9' 43" 20"	20160606～ 20160609 (確認調査)	50/ 613m ²	宅地造成
廿五里遺跡	若葉区東寺山町 2-5	12104	若葉区	35° -28	140° 38' 8' 6" 31"	20160610～ 20160617 (確認調査)	48/ 634.68m ²	宅地造成
台さら坊遺跡	若葉区坂月町 323-4	12104	若葉区	35° -159	140° 36' 10' 54" 52"	20160620～ 20160708 (確認調査)	366/ 5,059m ²	大型バス用 駐車場建設
西花遺跡	中央区大森町 66-1	12101	中央区	35° -74	140° 34' 8' 37" 41"	20160719～ 20160722 (確認調査)	45.25/ 379m ²	個人住宅建設
一本松遺跡	中央区大藏寺町 256-1、2	12101	中央区	35° -70	140° 34' 8' 19" 36"	20160830～ 20160905 (確認調査)	35/ 342.07m ²	個人住宅建設
上ノ山遺跡	花見川区長作町 833、834-1の一部、 834-5	12102	花見川区	35° -32	140° 40' 4' 43" 28"	20161024～ 20161104 (確認調査)	240/ 3,077.57m ²	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田向遺跡	包蔵地	縄文時代 平安時代	奈良・平安時代 住居跡1軒 土坑3基 溝状遺構1条	縄文土器 奈良・平安時代 土師器・須恵器	溝状遺構は、方形周溝状遺構になる可能性あり。
廿五里遺跡	集落跡 貝塚 城館跡 塚	縄文時代 中世	縄文時代 住居跡1軒 中世 土坑4基 溝状遺構5条	縄文土器・石器 奈良・平安時代 土師器	
台さら坊遺跡	包蔵地 貝塚 古墳	奈良・平安時代	奈良・平安時代 住居跡17軒 掘立柱建物跡4棟 溝状遺構2条 Pit6基	縄文土器 奈良・平安時代 土師器・須恵器	
西花遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代	なし	縄文土器 古墳時代 土師器・須恵器	
一本松遺跡	包蔵地		なし	なし	
上ノ山遺跡	包蔵地	縄文時代	縄文時代 土坑1基 土器埋納Pit1基	縄文土器 古墳時代 土師器	埋納Pitに埋設された土器は、北東北の切削壺形土器の影響をうけた地元の土器と考えられる。
要 約		<p>田向遺跡では、奈良・平安時代の住居跡1軒、土坑3基、溝状遺構1条を検出。土坑には切り合い関係あり。</p> <p>廿五里遺跡で、縄文時代中期の住居跡1軒と中世の土坑や溝状遺構を検出。中世の遺構は、城館跡に伴うもの可能性あり。</p> <p>台さら坊遺跡は、奈良・平安時代の住居跡17軒と掘立柱建物跡4棟などを検出。掘立柱建物の柱穴は、比較的立派で、住居跡の主軸線と平行する。平成26年度の調査範囲では、古代の住居跡は少ないとから、今年度対象範囲が村の中心と目される。</p> <p>西花遺跡と一本松遺跡からは、遺構が未検出。西花遺跡からは出土した遺物は、隣接する高速道路建設時に出土した古墳時代前期の土師器が少なくない。</p> <p>上ノ山遺跡は、縄文時代の土坑1基と土器埋納Pit1基を検出。遺構の密度は薄い。埋設された土器は、北東北を中心分布する切削壺形土器の特徴を有するが、口縁部の特徴や胎土の雰囲気、文様の構成などは関東地方の壠之内式期の特徴を有する。</p>			

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書

－平成 28 年度－

発 行 日 平成 29 年 3 月 31 日

発 行 行 千葉市埋蔵文化財調査センター
〒260-0814
千葉市中央区南生実町 1210
TEL 043-266-5433

印 刷 株式会社 正文社
〒260-0001
千葉市中央区都町 1-10-6
TEL 043-233-2235